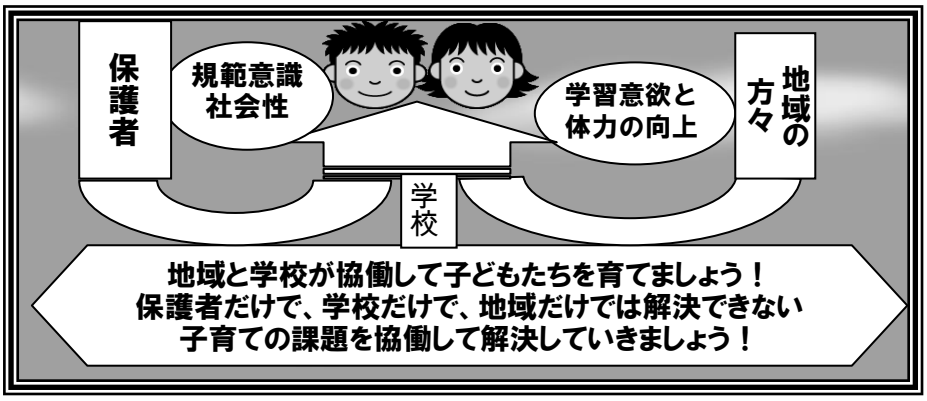
平成２５年度「学校・地域パートナーシップ事業」取組の概要

市　町　村	学　校　名　等
桜　井　市	桜井市立安倍小学校

1 「まなびの道コミュニティ」基本コンセプト



「聞く」「学ぶ」「協働」をキーワードにして、本校は「まなびの道コミュニティ」を立ち上げた。本年度は、初年度の取組であるので、地域や保護者に、県教委の基本コンセプトにそって本校が事業を始めることを知ってもらうこと、学校の抱えている課題を共有してもらうことに重点を置いて取り組んだ。そして、課題の中で今年度から取り組めることを見つけ出し、一つでも進めていきたいと考えた。

2 「まなびの道コミュニティ」取組の概要

4月―「まなびの道コミュニティ」事業の立ち上げ

・事業名を「まなびの道コミュニティ」として、職員の共通理解を図る。

・校内に「こころ生き生きＰＪ、体すくすくＰＪ、はなまるＰＪ、コミュニティ情報ＰＪ」を組織し、コミュニティ事業の会長、部長、学校コーディネーター、学校マネージャーを決定する。

・協議会長（校長）、部長（教頭）、学校コーディネーター（教務）、マネージャー（事務）で年間の活動計画をたてる。

・学校関連諸団体の総会等で事業についてアピール。

（校区体育協会総会、ＰＴＡ企画委員会、学校評議員会等）

5月―教職員による本校児童の実態や取組について熟議

事業を始めるにあたり、本校のこれまでの取組と児童の実態を教職員２５名で熟議する。その中で、本校として特に力を入れてきたことや課題、地域の協力を受けて取り組んでいきたいこと等を出し合った。1週間前に熟議のテーマを共通理解し、各自が1分程度のスピーチを用意して臨んだ。5つのグループに分かれ、各グループで司会者を決め話し合いを行った。

教職員による熟議の様子

《熟議されたこと》

①児童は、よい方向に変容してきている。

②児童に自立性をもたせることが必要。校外でルールが守れない、善悪の判断があやふや（規範意識の低下）

③家庭、地域の教育力の低下

④学校が地域の人たちに来てもらいやすい環境になっていない。

《熟議を行なった教職員の感想》

・少人数で話し合ったことで意見がでやすかった。後で、全体交流をしたことで、グループでは思いつかなかった意見もあって納得できた。

・普段と違うメンバーでの話し合いは新鮮でした。たくさん意見が出てよかった。意義ある話し合いだった。この中から欲張らずにできることから進めていけばいいと思う。

・このように普段の学級経営等も交流しあえる場があればいいなあと思った。若い先生たちと繋がっていく一つの場になるのではと思った。また、こんな機会があればいいなあと思う。

７月ー学習支援事業として「はなまる・タイム・イン・サマー」を実施

夏休みの最初の５日間に、自主学習会「はなまる・タイム・イン・サマー」を開いた。まず、地域に学習支援ボランティアを募った。７名の応募があり教職員１２名とともに、５日間の児童の自主学習の支援を行なった。113 名の児童が参加し、自分で用意してきた学習課題に取り組んだ。

「はなまるタイム・イン・サマー」の様子

１１月・２月ー第１回、第２回まなびの道コミュニティ協議会を開く

協議会には、地域から８名の方々にお忙しい中参加していただいた。また、地域コーディネーターさんには、事前に話し合いの進め方の打合せのため何度も学校へ足を運んでいただいて、話し合いのテーマ、時間配分等を決めていただいた。

第２回まなびの道コミュニティの様子

《話し合われた主な内容》

◎子どもの安全見守り活動

・減少しつつある支援スタッフを増やす。

◎ＰＴＡのリサイクル活動に地域として積極的に協力をしていく。

◎読み聞かせ活動をボランティアとともに進めていく。

次年度にむけて

次年度は、協議会での熟議を基本に、本年度試みた活動を更に充実させ定着を図ることと、本年度取り組み始めた読み聞かせの活動、リサイクル活動への協力を進めていきたい。